やまゆりニュース

「やまゆりニュース」第12号　発行日：平成26年2月1日
発行元　NPO法人あさお市民活動サポートセンター
〒215-0021　神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-5
TEL. 044-951-6321　FAX. 044-951-6467
発行人：植木昌昭　　編集人：佐々木直子

川崎市麻生区市民活動支援施設
麻生市民交流館やまゆり

目次：

地域活動体験記　1

A【安全・安心】
風通しのよい明るい駅
小田急線新百合ケ丘　2

S【サプライズ】
伝、渡辺崋山の花鳥山水画を復元！
色どり豊かな天井画にウットリ　2

A【アミューズメント】
人生に彩り添える演劇体験　3

O【お役立ち情報】
柿生アルナ園
地域包括支援センターの「出前教室」　3

やまゆりからのお知らせ
やまゆり区民講師公開講座日程　4

植え付け手順を聞く、真剣なまなざしの子どもたち

球根の寝床作りに汗を流すサポーターズのみなさん

地域活動体験記　素敵なこと素敵な人びととの出会い

百合丘小学校の校章･校旗にはゆりの花がデザインされており、校歌3番の歌詞は「香も清い白百合を」ではじまる。だが2004年ごろには、校庭のどこを探してもゆりの花はなかった。そこで新万福寺町内会では学校、保護者、地域が協働して校庭にやまゆりを咲かせましょうと学校に提案した。提案は承認され、2005年にやまゆり植栽事業がスタートした。

話は数年前にさかのぼる。2年生の午後の授業で、球根の植え付け作業をすることになっていた。ところが、段ボール箱に入れていたやまゆりの球根が消えてしまった。ゴミステーションの脇に置いていた箱が見当たらない。ゴミ収集車が間違えて持ち去ってしまったのだ。仲間と王禅寺処理センターへ急行した。探す球根は大きなゴミの山の中。水分をたっぷり含み、異臭の漂う膨大なゴミの山、ひるむ気持ちに鞭うって作業開始。程なくして作業服姿の職員6人が休憩時間を返上し一緒に探してくれた。30～40分ほどしたとき、私は職員への気遣いもあり｢見つけるのは難しい、終わりにしましょう｣とギブアップを宣言。すると隣にいた作業服の若い男が「学校で子どもたちが球根を待っているんでしょ、我々の時間より子どもの気持ちが大切です、続けましょう」と一喝、作業は続行された。結局、球根は見つけ出せなかった。

学校に戻り、王禅寺処理センターでの一部始終を生徒に報告した。帰りぎわ担任のベテラン教師から「球根は見つからなかったけど、今日のことは子どもたちの心の中にきっと大輪の花を咲かせてくれるでしょう」とハンカチを握りしめながらお礼を言われた。

昨年11月には、２年生全員と園芸委員が校庭斜面地の「ゆりっこ森」に200球を植えることができた。そのなかには種子から5年がかりで育て、寄贈された得難いやまゆりの球根もあった。また、通りすがりの人からは「きれいに咲くのを楽しみにしています、ご苦労様ですね」とたびたび声をかけられもした。

新万福寺町内会からやまゆり植栽事業を引継いだ百合丘小学校山百合植栽協力会では8月10日ごろには開花し、ゆりっこ森に800輪ほどのゆりが咲き誇る光景をイメージしている。学校では鑑賞会の開催を検討するとも聞く。その際は近隣の皆さんも在りし日の百合丘を懐古してください。できれば、協力会員になって、素敵な仲間や可愛い子どもたちと、やまゆりの植栽活動を通して、胸のたかなる感動もぜひ体験してみてください。

区民記者　竹市八郎

香も清く誇らしく「ゆりっこ森」に咲いたやまゆり

★協力会員を希望される方は☎044-966-2942（竹市）までお問合せください。

Anshin 安心

風通しのよい明るい駅　小田急線新百合ケ丘

新百合ヶ丘駅長　勝又彰氏

麻生区の中心、新百合ヶ丘駅が新設されたのは1974年。街の発展とともに果たす役割も大きくなってきた。昨年度の1日平均乗降客は約12万3千人で小田急線全駅中9位、1日の停車電車は762本、（平均およそ2分に一本が発着）。快速、急行など停車列車の種別の多さは沿線随一だ。2017年度に梅ヶ丘ー代々木上原間の複々線が完成すれば、新宿までの所要時間が4分ほど短縮、千代田線直通電車が増え、混雑は20％ほど緩和される見込みだ。

新百合ヶ丘駅を見学する金程小学校児童

勝又彰駅長以下49人（内女性5人）の駅員さんが24時間、交代勤務で利用客の「安心・安全・安定」（社是）をまもっている。最近は携帯・スマホを操作しながらの事故が増え、ホームから線路へ転落したケースも発生しており、駅では注意を呼び掛けている。ホーム柵の設置も検討されているが、「ながら歩き行為」はそれ自体危険なので自粛したいものだ。災害時対応では、麻生区・多摩市と帰宅困難者支援・混乱防止策を常時協議しており、飲料水、レスキューシートなどを備蓄している。

地元の幼稚園児、小・中校生などが駅見学によく訪れる。昨年11月にも、金程小・中校生など、園児・学童延80人ほどが訪れた。「見学の受け入れはもちろん、今後は麻生区民祭、地域のイベントなどにも参加していきたい。お声かけがあればご相談に乗ります」と、吉山副駅長。先日、駅見学に来たことのある幼稚園児からホームでかわいい声をかけられた。無事に目的の駅までお送りするんだー勤続32年の氏が、しみじみ鉄道マンの喜びと責任をかみしめたひとときだ。＜安全で、風通しのよい明るい駅＞が全員の合言葉。

「なんでも気軽にお声をかけてください」とメッセージを託された。

取材・文　飯田保幸

Surprise サプライズ

伝、渡辺崋山の花鳥山水画を復元！色どり豊かな天井画にウットリ

天井画（復元画、部分）
頭上に広がる絵の見事なでき栄えに息をのむ

琴平神社は、古く室町時代、元亀元年（1570年）に神明社として建立された。その後、江戸時代、文政９年（1826年）に、四国金刀比羅宮の祭神を迎えて合社し、武州柿生琴平神社となった。

2007年に焼失した天井画が、2011年に本殿とともに現宮司の志村幸男氏の筆で復元。希望者に公開され、訪れた人の目を奪っている。焼失した絵は、画風と筆の運びから、江戸時代後期の著名な文人画家、渡辺崋山（1793～1841年）の作と伝えられている。崋山の日記に登場し、会合を通じて親交のあった、先祖の依頼で描かれたと思われる。

天井画は、多くの幸運が重なって復元された。まずは、先代の宮司がプロに依頼して、焼失する前にしっかりした写真を残していたこと。つぎに、現宮司の幸男氏が「何が何でも復元する」という情熱を持っていたこと。そして同氏に、日本の伝統的な技法や写実を追求する「白日会（※）」で活躍する、秀でた画才があったことである。原画は杉板の上に直に描かれた日本画であったが、復元画は保存性からキャンパスに油絵具で描かれた。一辺53cm、７行９列の絵は、本殿の天井にピッタリはまっている。中央に配した龍のみが、古来神秘的で架空の生物で、ほかは全て実在の動植物である点に、崋山の宗教的な思いを感じる。

天井画は希望すれば見学できる。
要予約（☎琴平神社社務所044-988-0045）

取材・文　中島久幸

ツル（原画の写真）
奇抜なポーズに崋山の非凡さがうかがえる

ツル（復元された絵）
絵は全て金色の下塗りの上に描かれた

（※）**白日会**：大正12年（1923年）発足の美術研究団体。日展（1946年～）より古くから展覧会を開催

琴平神社DATA
所在地：麻生区王禅寺東5-46-15
駐車場：70台
アクセス：小田急線柿生駅南口から徒歩約30分
URL:http://www.kotohirajinja.com/

Amusement アミューズメント

人生に彩り添える演劇体験

「ＡＡＧ（あさおアートグループ）」は、麻生区在住の俳優大森啓祠朗さん（NHK「龍馬伝」他出演）、小林拓生さん（NHK「白洲次郎」他出演）、橘憲一郎さん（舞台「いろはに金平糖」他出演）が、2011年１月に設立した演劇集団。演劇に関わるのははじめてという市民と共同で、音楽劇「星の街の花嫁」に取り組んでいる。「生きるうえで大切なものは何か」を問いかける作品である。

絃花さん「いろんな年齢の人と触れ合えるのがおもしろい」（前田さん母娘＝右手前）（代表の大森さん＝左）

２月公演（※）では、麻生区民10名（子役2名含む）が初舞台を踏む。そのひとり篠崎旗江さんは、還暦の記念に新しいことに挑戦したいと一念発起。オーディションを経て今、その思いを成し遂げようとしている。

母娘出演の夢をかなえたのは前田暁美さん・絃花（いとか）さん（9歳）。暁美さんは「お風呂で、歌の母娘練習が日課になりました。共通の話題ができて、会話も弾みます」と話す。

大詰めを迎えた稽古場で、「AAG」らしさを感じる光景を目にした。それは、ラブシーン（？）。不慣れそうな若い男性が、遠慮がちに女性の肩に手を置く。その女性が「もっとギュッと！」と言うと、ギャラリーからエールと笑い声と拍手が起こった。市民が、プロのリードに自然体の演技で応え、意見を出し合い、皆で作り上げている様子が伝わってくる。

「すべてがはじめての経験。くじけそうなときもあるけど、とても刺激的で楽しい」と語る篠崎さん

「世代間の交流」や「プロとの交流」を育み、楽しむ市民の姿に、「AAGの目指すもの」が重なって見える。

同じ地域に住む仲間の、夢や決意が形になる・・・その瞬間にぜひ、立ち会いたい。

ＡＡＧ（あさおアートグループ）DATA
◆代表　　大森啓祠朗
◆問合せ　☎044-986-3438（AAG）

※2月15日（土）14時・19時開演
2月16日（日）15時開演
川崎市アートセンター アルテリオ小劇場
☎044-955-0107

取材・文　落合ふみこ

Oyakudachi お役立ち情報

柿生アルナ園　地域包括支援センターの「出前教室」

昨年７月末、柿生アルナ園で開催された会議で、いま住んでいる街区の高齢化率（人口に占める６５歳以上の割合）がすでに40％に達しており、５年後には50％を突破する。麻生区全体の19.7％に比較して突出している。この情報に、白山さつき街区第１管理組合の自治会活動“ちょっと支援隊”は、何とかしなければと強い衝動に駆られた。

準備を進め、１１月２日、アルナ園と連携し「坂の多いこの地域で、元気に暮らしていくために」というテーマで出前教室を開催した。

「上を向いて歩こう」に合わせた介護予防体操で体をほぐしたあと、麻生区の高齢化や介護の状況、介護予防のポイントの解説があった。資料「なぜ日本人は助け合いが苦手なのか？」が配布された。「助け合いが始まるための十ヶ条」「助けられ上手になるための十二ヶ条」の説明。高齢化、孤立化が進む地域で、気軽に「助けて！」と言え、助け合えるような地域づくりが、安心して楽しく暮らすために非常に大切だとの思いを参加者に抱かせた。

１月初めにアルナ園を訪ねた。菊池センター長は「これからの高齢化社会で、日常生活での買い物や医者通いに、大地震等の災害発生時に、個人の抱える様々な問題に対して、公的機関が対処するには限界があり、地域社会の果たす役割が非常に重要になる」と言われる。センターとして「地域社会がそれに向けて体制づくりする活動を積極的に支援したい。センターには４名の専門スタッフがいる。そのためには何処にでも出かけます。積極的に、なんでも気軽に声をかけてほしい」とのこと。

アルナ園は、昨年秋、真福寺五町会の避難防災訓練で「車イスの使い方及び車イスを使った避難体験」の指導を行った。白山の新ゆりグリーンタウンのいくつかの街区では、ご近所づきあいの活発化のためには住民が気軽に参加できる仕掛けづくりが大切と、映画会、お茶会など様々なイベントを開催している。その際に出前教室を依頼し、介護予防体操を行い、情報交換、よろず相談会を受けている。

さつき第１管理組合「出前教室」

地域と包括支援センターが密接に連携すれば、お年寄りが、安心して住み易い、やさしく配慮の行き届いた地域の体制作りが可能と思われる。

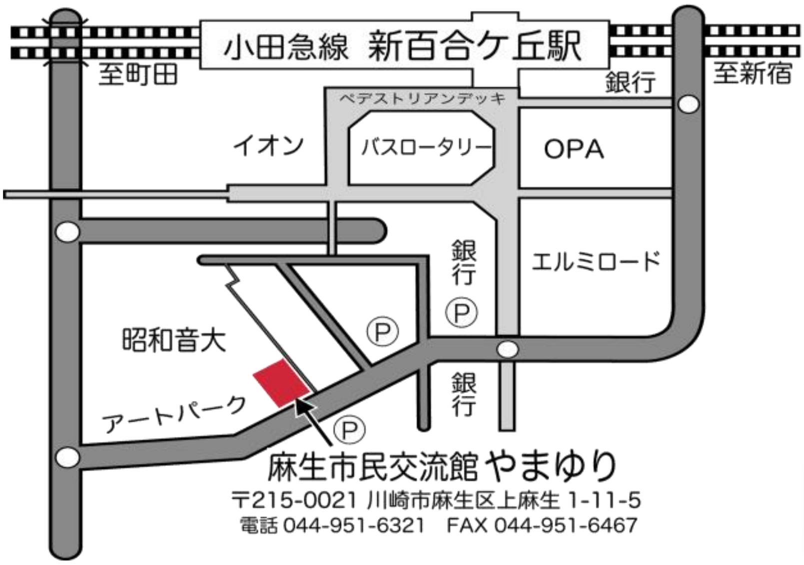
「出前教室」等の相談、お問い合わせ：
担当の地域包括支援センター

取材・文　吉田清次

第５回 麻生市民交流館やまゆり 区民講師公開講座

日	時 間	テ ー マ	講 師
2月			
21(金)	14時～16時	イメージを言葉にのせて朗読を楽しむ	中 塚 恵美子
3月			
8(土)	14時～16時	コヴィ・ドラッガーに学ぶ時間管理	中 塚 忠 則
22(土)	14時～16時	暴走老人の北海道バイクの”たび”	我 妻 昌 幸
29(土)	14時～16時	麻生に残る義経史話	松 本 良 樹
4月			
6(日)	14時～16時	どじょうすくい踊りで楽しく健康に	三 浦 清 市
19(土)	14時～16時	俳句入門　　―楽しく俳句を―	長谷川　威
21(月)	14時～16時	さあ！始めよう　ビーズ手芸	龍 崎 ナヨ子
5月			
13(火)	10時～12時	揚琴に触れ、音楽演奏の楽しさを！	村 井 良 子
17(土)	14時～16時	幼・老親子を結ぶ心のぬくもり発見　心絵(得)会	山 田 葉根与
18(日)	14時～16時	ストレスは全ての病気の原因	鴇 沢 一 男
25(日)	14時～16時	お仲間がどんどん増える！プチ心理学”社交術”	ハナダ　サトシ
26(月)	14時～16時	木版画・植物画の制作の過程とポイント・手法	蔭 山 茂 富
6月			
21(土)	14時～16時	マレーシア ロングステイ	丸 岡 正 廣

＊開催月の１ヶ月前の月初に、講座のチラシを配布します。
詳細はチラシ又は「やまゆり」HPをご覧ください。お申し込みはチラシ裏面にてお願いいたします。
主催　NPO法人 あさお市民活動サポートセンター



【開館日】
月曜～金曜　9時30分～17時
※平日の夜間、土曜・日曜、祝日も予約すれば利用可。
休館：年末年始、施設点検日

【アクセス】
小田急線「新百合ケ丘駅」南口から徒歩４分

【ホームページ】
http://web-asao.jp/yamayuri/